

物語る植物

—植物が語る日々のくらしの美術展—



2024 10.9(水)—20(日)

開館時間: 午前10時から午後5時まで

観覧料: 一般200円／専門・大学生100円／65歳以上・高校生以下無料

主催: 大崎市教育委員会

後援: 河北新報社・大崎タイムス社・大崎市文化協会

a. 林範親《下見板》(部分)／b. 澤山睦子《早春》(部分)／c. 安彦文平《フルーツ》(部分)

d. 佐々木俊弘《プルンネラ》(部分)／e. 浅野友理子《耕地の緒》(部分)

関連事業

ワークショップ

「空想の草花を咲かせよう!」

会期中随時開催・申込不要

大崎市民ギャラリー

を だえ やかた

生者の館

宮城県大崎市古川三日町一丁目1番1号

TEL 0229-21-1466

物語る植物

—植物が語る日々のくらしの美術展—

大崎市民ギャラリーでは開館以来、美術が身近なものであることをわかりやすくするため、美術と生活との関わりをテーマとした独自の企画展を開催してきました。今回は、常に身近な存在であり、古くから絵画や彫刻などの題材として取り入れられている「植物」をテーマにした展覧会を開催します。

植物は、はるか昔より食べ物や薬として人類にとって生きるためにかかせないものでした。一方では、季節の移り変わりを感じさせる風物として、あるいは生命力に満ちた神秘的な存在としても扱われてきました。植物は人々の五感に触れ、日々の生活に潤いをもたらす存在として、芸術のなかに独自の表現を生み出す役割を担ってきたのです。

この展覧会では、植物を忠実に再現したものから特徴を捉えて独自の表現に結実した作品、あるいは植物の形や色の美しさを様々な材料で表わした作品、さらに、作家が空想した現実には存在しない植物など、美術における多種多様な植物の表現を紹介します。

植物がいかに生活に密接に関係し、どのように美術に影響を与えてきたかを辿ることで、美術をより身近に感じ、作品から物語を読み取るような鑑賞の楽しさを提案します。

ワークショップ

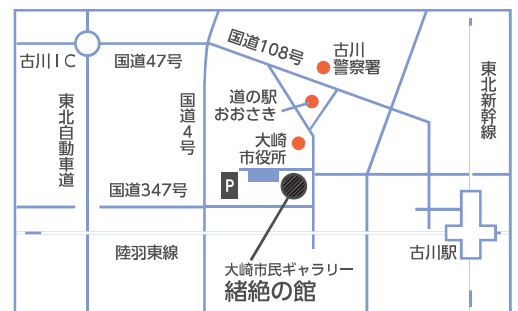
空想の草花を咲かせよう！

会期中随時開催：申込不要／参加自由／参加費無料
色とりどりの材料を組み合わせ、思い思いに植物を作ります。

こんな草花があったらいいな！という、たくさんの発想で会場いっぱいに草花を咲かせましょう！

アクセス

- JR東北新幹線・陸羽東線古川駅より徒歩約15分、タクシー約5分
- 東北自動車道古川ICより車で約10分
- JR高速バス「古川十日町」下車、徒歩約5分
- 宮城交通高速バス「七日町」下車、徒歩約3分



- a. 澤山睦子《早春》
- b. 林 範親《下見板》
- c. 佐々しげ子《鬼灯》
- d. 佐藤道子《小花》
- e. 安彦文平《フルーツ》
- f. 千葉啓子《無題》
- g. 佐々木俊弘《プルンネラ》
- h. 姉齒公也《発電樹》
- i. 浅野友理子《耕地の緒》

大崎市民ギャラリー

食の館

宮城県大崎市古川三日町一丁目1番1号
TEL 0229-21-1466